西中通信

発行　西会津中学校
文責　五十嵐　正彦（校長）

県ＪＲＣ学校公開間近！

平成二十九・三十年度と二年間のＪＲＣ研究の成果を発表する学校公開まであと一週間となりました。

「気づき・考え・実行できる生徒」を目指して、授業を始め様々な活動を通して取り組んできました。

今回の発表は、その中でも、各地区別で行ったボランティア活動を中心とした内容です。ステージでのプレゼンや寸劇、地域の大人の方々との意見交換あり、会場全体を四カ所に分けてポスターセッションありとバラエティーに富んでいます。

生徒たちは、まずは十五日(月)のリハーサルに向けて、最後の仕上げに取り組んでいます。タブレットで録画したものを見合ったりしながら、まさに、気づき・考え・実行する実践を積んでいます。とても楽しみです。

これまでの取組の中で、教師が意識してきたことは、次の三点です。

①生徒の主体的な学校生活
②生徒の気づきを促し、待つ姿勢
③生徒に振り返りをさせ、価値づけてよりよく改善させる、意図的な支援

学校公開がゴールではありませんので、これまでの研究の成果をもとに、さらに改善しながら、生徒一人一人がより成長できるように取り組みを続けてまいります。

なお、光桐祭でも発表しますので、お楽しみに。

光桐祭に向けてＰＴＡ委員会合同会開催

去る十月二日（火）にＰＴＡ委員会合同会が行われました。お忙しい中お集まりいただき、大変ありがとうございました。協議内容は、十一月三日（土）に行われる光桐祭の模擬店についてでした。

毎年保護者の皆様に全面的なご協力をいただき、光桐祭を盛り上げていただいておりますことに、あらためて心より御礼申し上げます。

受付が行われました。光桐祭まで準備等ご苦労をおかけしますが、光桐委員会を中心に、保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

十日（水）・十一日（木）と食券の申込

過干渉は『生きる力』を奪う

親として、我が子をよりよく育てたいのは、自然の感情だろう。だが、それが高じると、絶えず子どもの一挙一動に気を配り、次々と指示を出し、なんとか我が子の評価を上げたいと懸命になりすぎる。

子どもにすれば、親がいつも自分に注目し、行動をコントロールし、評価を下すという空気を感じ取る。「親の顔色をうかがう」という表現があるが、まさに親の要求にうまく応えられるような行動形式を身につけていく。親のほうはむしろよかれと思って懸命なのだが、その善意がかえって子どもから生きる力を奪いかねない。

（中略）

最近の子どもの特徴として、反抗期がないとか、友達より母親と過ごしたがるとか、成人しても親の言うままに行動するなどと言われる。従順ないい子、という面ばかりを求められつづけて、子どもたちは疑いや反抗を持たなくなってしまう。

おまけに、親のほうも子どもに従順なのだ。子どもを仕切る一方で、常に気を配り、細々と世話を焼きたがる。ガミガミとロうるさい反面、結局は折れてしまい、気づけばせっせと子どもの機嫌を取っていたりする。

子どもたちが失敗を恐れることと同様に、親たちもまた子どもから「嫌われたくない」思いが強い。

石川結貴著「心の強い子どもを育てる」（花伝社）より

県ＪＲＣ学校公開
好天・無事故・大成功を！

十月の主な行事

１４（日）○県ＰＴＡ喜多方大会
１９日（金）○県ＪＲＣ学校公開
２２（月）～２９（月）○光桐祭準備期間
○教育実習開始

県ＰＴＡ喜多方大会ご協力ありがとうございます

十一月の主な行事

３（土）○光桐祭
４（日）○光桐祭記念ゲートボール大会
５（月）○繰替休業日
８（木）○第２回高校説明会
１３（火）～２０（火）○三者面談
１６（金）○教育実習終了
１８（日）○ふくしま駅伝
２１（水）・２２（木）○期末テスト
２７（火）○３年実力テスト
２９（木）○読書計算コンクール